

経営の道具としての

「ISO」管理システム

株式会社環境セキュリティ・システム研究所
代表取締役社長



米ヶ田 健司 氏

この情報誌（この欄）をお読みになるのは、いったい誰でしょうか？ 多くは経営者や管理者の方でしょう。となると「ISO」について過去に一度くらいは聞いたことがあるでしょうから、「ISO とは何か」の説明は割愛させていただきます。

1. どんな仕事か

現在わたしの仕事の柱は、各種 ISO マネジメントシステム（国際規格に基づく経営管理の仕組み）の導入や見直し・再構築での指導助言です。

14年前に起業しましたので、この業界では九州で最も早い時期に事業を開始した一人かもしれません。

指導分野は、品質（9001）、環境（14001）、労働安全衛生（18001）、情報セキュリティ（27001）、個人情報保護、事業継続管理や食品安全・衛生（22000/HACCP）、医療機器品質（13485）、自動車品質（16949）など、業種は様々です。

大分での指導分野は、「品質」、「環境」、「食品安全・衛生管理」およびこれらに関連して前提となる基盤整備や業務改善への助言・指導、研修が多いですね。

2. ISO 導入（再構築）の鍵（キー）

ISO マネジメントシステムで多く出てくる『負のキーワード』は、“文書化が大変だ”“仕組みが面度くさい・難しい”“（自社に当てはめるのに）解釈が難しい”“（経営の）役に立たない”などでしょうか。

しかし、これらの『負のキーワード』は ISO への誤解と偏見によることが多いというのが私の実感です。

なぜなら、ほとんどの ISO 規格は、抽象的に「自社のリスクを洗い出し評価し、重要なもの（業務）を管理する仕組みを決める」「方針や目標を定め、実行する」「管理ポイントを明確にし、手順を定め実施し、チェックする」などの最低限、経営管理として“しなければならない”ことを規定しているだけです。“どのようなやり方でどこまでするか”はそれぞれ企業の責任で、自分たちで決めれば良いのです。

そのことが理解されず、“他社の例をそのまま利用したり”“自社の現状も把握せず、ISO 規格の文字面にあわせて文書を作ったり”すると、大抵は『負のキーワード』につながります。

要は「この欄」の過去の寄稿でも多くの方が書かれてきた「現状分析」が大事ということです。ISO に関わらず“業務を改善したい”“経営革新をしたい”という時に、自社の現状を知る事無く、行動を起こすことはないはずですが。

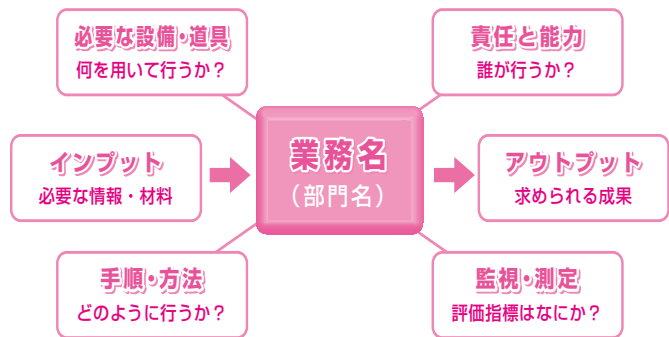
3. 「現状分析」の方法

「現状分析」の方法について、当然 ISO 規格では特定の方法を指定していませんから、基本的には自由です。頭を整理するためには、簡単な図や表の形式にするのが

良いでしょう。多くの方が良く見かけるようなものでは面白くないので、ここでは「タートル分析図」をご紹介します。

タートル（亀）図は、名の通り、“頭（イン）と尾（アウト）に手足（4つ）”をくっ付けた図です。この図をつなげていくと自社全体がどのようにして成り立っているか分かるはずですが【これは ISO 導入用ということではありませんから何にでも利用できます。一度お試しあれ】。

タートル図（様式）による業務分析の例



4. 経営の道具としての「ISO」

「現状分析」をしっかりとやっていけば、ISO 規格の文面（文字）に捕われた構築にはならないはずですが。「自社の業務（現状）」を「規格」に合わせるのではなく、「規格の意図」を「自社の業務」に引寄せするイメージの構築をするということです。

また、「現状分析」で使った図や表をそのまま ISO の文書にしまい、見た目立派な文書（マニュアル・規程）を作ろうと考える。文書は飾り物でないのですから、業務を確実にするための使えるものにするのが肝要です。

このようにして導入（再構築）された ISO は、経営の道具としての「ISO」になっているはずですが。

米ヶ田 健司 氏 プロフィール

株式会社環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役社長
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-11-22 JOY博多
TEL092-483-1595 / FAX 092-483-1927
URL: <http://kankyousecuritysystem.com>

1959年、熊本県生まれ
神戸大学 経済学部 卒業。銀行(本社・東京)にて“企業融資・審査・調査・業務指導・海外支援・企業再建など担当”。同行・福岡支店在職中には大分県の企業や金融機関(銀行・信金など)も担当。
1996年、(株)環境セキュリティ・システム研究所を設立し、現在に至る。
ISO 等の指導・研修・講演など中心に活動。